



しんねん あいさつ
新年のご挨拶

あげおしこさくいこうりゅうきょうかいがいちよう せきもとまさひろ
上尾市国際交流協会会長 関本正弘

会員の皆様 あけましておめでとうございます。健やかに新年を迎えられたこととお喜びもうしあげます。コロナ禍も、新しいウイルス（オミクロン株）が加わって先行きがはっきりしませんが、全国の感染者数は確実に減少傾向を示し明るい兆しも見えてきています。新春には人々の営みも元に戻り、希望の光を見ることができのではないかと思います。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2月に予定していた駅周辺の施設利用による「ミニチュア版ワールドフェア」が中止に追い込まれるなど、多くの活動が中止となりました。そのような中、国際交流協会の理事会も感染の拡大を防ぐため1月14日に初めてオンラインに切り替え実施され、それ以降現在までオンラインによって開催されています。日本語教室は1月の授業を最後に3月いっぱいお休みとなり4月に再開しました。しかし対面での活動は無理であるとの判断から、5月からはズームによる授業となり、現在に至っています。子ども教室は4月再開後5月から休止しています。また、サマーパーティーもズームオンラインで実施されました。多くの行事は中止になりましたが、感染状況の落ちつき具合を見つつ、7月に「外国人のための生活情報講座」が、そして11月にはAGA子ども教室研修会が対面式で行われ、今後の活動に明かりがともされたように感じました。

世界的な新型コロナウイルスの流行により、私たちの活動も大きく影響を受けました。その最たるものが、会員数の減少です。特にコロナ以前は活発に活動していた日本語ボランティアの皆さんの退会は、今後の活動に大きな影響を及ぼすものと考えられます。コロナがおさまったら、ぜひ復帰していただきたいと思えます。

今年度もあと三か月を残すのみとなりました。感染状況も下火となったことから、3月までにいくつかの行事を予定しています。多文化子育てお母さんの会は、毎月1回計3回開催予定です。また、日本語ボランティアおよび日本語ボランティアを希望する市民のための研修会が2月に開催されます。また、今年度最後の行事として3月にAGAサロン（英語サロン）も予定されています。積極的な参加をお願いいたします。

最後になりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の一日も早い収束を願いつつ、会員皆様のご健勝をお祈りし、今後とも、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



謹賀新年

あがたぶんかこそだ かあ かい
●AGA多文化子育てお母さんの会

日時： 2022年1月21日（金）10:00～11:30（受付9:45）

場所： 上尾市コミュニティセンター 多目的室1

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

申込み：AGA事務局 FAX:048-775-0007 E-mail:office@aga-world.com

☆ オンライン外国人講演会の開催報告

在住外国人からのメッセージ～異文化の中で暮らす生活体験から～

12月11日(土)にZOOMミーティンググループを通じて上尾市国際交流協会主催「オンライン外国人講演会」を開催し、埼玉県内一円より31人が参加されました。3人の在住外国人を講師に迎え、在住外国人からのメッセージ～異文化の中で暮らす生活体験から～をテーマに、日本に来られてから今日まで母国の言葉と生活環境の違う環境のもとで様々な壁を乗り越え暮らしてこられた生活体験について語っていただきました。

外国人講師の一人、キューバ出身のカティア クレスポ コグレさんは、来日した時、「キューバでは見たことがない「橋・ブリッジ」が上にも、真中にも、下にも作られた高速道路を見て驚いたことでした。」生活習慣については、「キューバでは、靴は履いたまま部屋に入りますが、日本では家に入るとき必ず靴を脱ぎますので、外国から来てそれをやるのは大変でした。しかし、今は、日本のやり方はとてもきれいなので、日本のやり方のほうが良いと思っています」と語りました。日本人とのコミュニケーションでは、日本語で「・・・してくれる」、「・・・してあげる」、「・・・教えていただく」という言葉がとても難しく、最初は何を言っているのかほとんど分かりませんでした。日本には立派な日本語教科書がありますが、大学の修士課程の知識を基にスペイン語圏の人たちのためのスペイン語教科書を日本人の仲間とともに作ることが私の夢です。続いて、日本の社会の中で気づいた問題について語り、日本では人と人とのスキップをほとんどしないというのに、知らない人とはほとんどお話ししませんので、人間関係の構築がとても難しいように思います。キューバでは列に並んでいる時とか、病院で待っている時は、知らない人に声をかけるのは普通なことであり、友達になることも時々あります。昨年、私は友人から「おとなりさん」というプログラムに参加の誘いを受けました。このプログラムの目的は、1組の外国人家族に1組の日本人家族を割り当てて、必要なことを手助けすることです。6か月前にこのプログラムに参加して助けられただけでなく、同時に友情を築くことができ素晴らしい経験をしました。先月日本人の友人が変わり、この友人はキューバに住んだことがあり、スペイン語を話すことができるので、彼女にスペイン語を手伝ってあげたいと抱負が語られました。

ルーマニア出身の関口コルネリアさんは、来日した時、「息苦しくて湿気の多い空港ビルの中で、そこに働く人々は清潔でよく組織されていること、耐え難い暑さの中、急いで歩く人々、引き締めあっている建物に色とりどりの広告板、そして、たくさんの車を目にした」との感想が述べられました。生活体験では、息子が生まれ、母親になってから、育児、子育てで大変苦勞したことを語り、息子が小学生になってから、PTA文化委員会の役員として活動している間、他クラスの役員のママ友に何度も説明してもらったり、自分の代わりに書いてもらったり、たくさん助けられ、親切にしてもらった。「もし親切にしてもらえていなかったらどうなっていたか想像もつかない」と語り、支援してくれた日本人のママ友への感謝の言葉が述べられました。日本人とのコミュニケーションでは、「日本に来る前に学んだ日本語の教科書に載っている日本語は、実際に街頭や出会った人たちの日本語とは違っていました。授業での会話で使った「・・・ます」、「・・・ますか」、「・・・ました」、「・・・ませんでした」で終わる動詞は誰も使っていませんでした。その理由を理解するのに少し時間がかかりました。日本人とコミュニケーションをとるとき、ゆっくり話してもらったり、同じことを数回繰り返すよう伝えるほか、理解できない言葉は意味を説明するようお願いしてきました。日本人には、毎回、親切に忍耐強く対応していただいたお陰でコミュニケーションをとることができるようになりました。外国人が日本の文化や言語を理解するには、母国の考え方から抜け出す必要があります。一方、日本人が外国の文化と生活習慣が異なる外国人に接するときはリスペクトしていただく必要があると思います。そして、外国人と日本人との関係をより良く築くためには、お互いに時間と忍耐と多文化活動への関与が必要だと思います。日本での生活が20年近く経た今、日本人と仲良くなるためには、日本の生活習慣、日本人の考え方、伝統文化

をより理解・尊重する観点から、「礼儀正しさ」、「チームワーク」、「社会的接触」についてよく認識することが必要だと思っています。」と語りました。最後に、「私は日本に来て、日本の文化に触れることができ、また、多くの日本人と交流ができ、とてもうれしく思っています。これからもお互いに文化の違いを尊重しながら、より多くの人々と交流を深め、楽しく有意義な日々を過ごしたいと思います。」と抱負が語られました。

スリランカ出身のアサカマニアラン シャヨナさんは、来日した時、「スリランカのテレビで日本のドラマ「おしん」で見た日本人は着物や浴衣を着ていて体が小さい人ばかりと聞いていたのですが、空港に降りたとき、日本人は、みんな洋服を着ていて体が大きい人ばかりでとても驚きました。また、スリランカでは何でも火を通してから食べる習慣でしたが、日本のレストランで「お刺身」をすすめられたとき、魚を生で食べると癌になるといわれていたのが心配したことでした。」次に、日本の生活体験を通じて気になったことについて語られました。「日本では事故にあつて困っている人がいても、周りの人がすぐに助けに行かないのは、どうしてかな・・・?」と思いました。例えば、以前に起きた福知山線の脱線事故のとき、人の助けが遅かったために、亡くなった人も多かったことをニュースで聞きました。また、道で自転車に乗って転んでいたおばあさんを見たとき、警察や救急車が来るまでに周りの人が何もしないで、助けを待っていました。日本では人間関係があまりよくないのかな?と考えました。その一方で、外国で困った国があったときは、先に助けに行く日本人が、なぜ国内で近くの人を助けないのか不思議です。」さらに、スリランカでは、親にとって子どもは小さい頃だけでなく、いつまでもかわいいし、手をつないだり、ハグしたりするのはあたりまえのことだと思っていたが、ある日、息子の学校からの帰り道で、息子と手をつないで歩いていたとき、周りの子供たちが笑いながらひそひそと話をしていました。このことを後で聞いたところ、子どもがお母さんと手をつなぐことは恥ずかしいことと思っていることを聞き、とても残念な気持ちになり、日本では親と子の関係が薄いのではないかと感想が述べられました。また、最近報道された名古屋入管の中で命を落とされたスリランカの女性の件について触れ、少しでも、この女性の話に耳を傾け、人間として扱ってくれたら大事な命は守られたのではないかと述べ、外国人の人権についての感想が語られました。最後に、外国人として、日本語の難しさや文化の違いにとっても苦労しています。日本人でも外国に行ったらそのことが理解できると思います。言葉がうまくできないために困ることがたくさんあります。世界中でいろいろ文化も違い、人間も一人ひとり違います。日本人もそれぞれ違います。日本で住む私たちはここまで来るために、多くの優しい日本人に支えと勇気をいただきました。お陰でたくさん日本のことを学びました。その優しい日本人のことをいつまでも誇りに思い感謝しております。私もそういう風に困っている人にできる助けをしたいと思っていますし、日本の文化も忘れずに生きていきたいと思っています。」と抱負が語られました。

日本人と外国人とのより良い関係を築くには、双方が共に社会を担うパートナーとして人と人とのふれあい、お互いに違いを理解し助け合っていくことが大事であることを改めて認識いたしました。講師の皆様には、ことばが違う中で日本語を使って講話をまとめていただきありがとうございました。熱心に聞いてくださった皆さん、ご参加ありがとうございました。



AGA Calender

2022年1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8 ☆外国人子ども教室 10:00～11:30 上尾市文化センター 302
9	10	11 ○にほんご教室 10:00～11:30 オンライン授業	12 ○にほんご教室 19:00～20:30 オンライン授業	13 ●理事会 18:30～	14	15 ☆外国人子ども教室 10:00～11:30 上尾市文化センター 501
16	17	18 ○にほんご教室 10:00～11:30 オンライン授業	19 ○にほんご教室 19:00～20:30 オンライン授業	20	21 ☆多文化子育てお母さんの会 10:00～11:30 コミュニティセンター 多目的室1	22 ☆外国人子ども教室 10:00～11:30 上尾市文化センター 302
23/30	24/31	25 ○にほんご教室 10:00～11:30 オンライン授業	26 ○にほんご教室 19:00～20:30 オンライン授業	27	28	29

じむきよく がつ にち がつ か ねんまつねんし きゅうぎょう
事務局は、12月29日～1月6日まで年末年始の休業とさせていただきます。

AGA Letter 第141号 2022年1月1日発行

発行責任者：関本 正弘

編集：AGA事務局

発行：上尾市国際交流協会

〒362-8501 上尾市本町3-1-1 上尾市役所別館1F

Tel: 780-2468 (直通) / Fax: 775-0007

E-Mail: office@aga-world.com



じむきよく しやくしよだい べっかん
※AGA事務局は、市役所第3別館1
かい しやくしよほんちやうしやむ がわ
階（市役所本庁舎向かい側のビル）
しゅっきん げつ もく きん
スタッフの出勤は、月・木・金の10:00
～16:00です。
※AGA事務局が不在のときは、上尾市役所市民
協働推進課（Tel.: 048-775-4597）へ。